

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

ステップ1 予習

◇ここで習う人名の予習をしましょう。漢字は「読み」「なぞり書き」「書き」をします。

	よみ	なぞり書き	書き
ひみこ 卑弥呼	()	卑弥呼	<input type="text"/>
しょうとくたいし 聖徳太子	()	聖徳太子	<input type="text"/>
そがのうまこ 蘇我馬子	()	蘇我馬子	<input type="text"/>
おののいもこ 小野妹子	()	小野妹子	<input type="text"/>
そがいるか 蘇我入鹿	()	蘇我入鹿	<input type="text"/>
そがえみし 蘇我蝦夷	()	蘇我蝦夷	<input type="text"/>
なかのおおえのおうじ 中大兄皇子	()	中大兄皇子	<input type="text"/>
なかとみのかまたり 中臣鎌足	()	中臣鎌足	<input type="text"/>
おおとものおうじ 大友皇子	()	大友皇子	<input type="text"/>
おおあまのおうじ 大海人皇子	()	大海人皇子	<input type="text"/>
おおのやすまろ 太安万侶	()	太安万侶	<input type="text"/>
とねりしんのう 舎人親王	()	舎人親王	<input type="text"/>
おおとものやかもち 大伴家持	()	大伴家持	<input type="text"/>
しょうむてんのう 聖武天皇	()	聖武天皇	<input type="text"/>
がんじん 鑑真	()	鑑真	<input type="text"/>

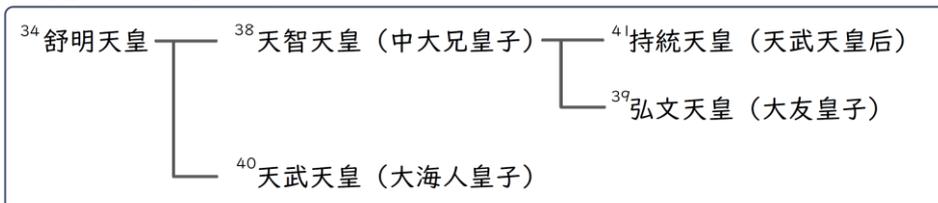
この単元の参考資料

飛鳥・奈良時代 年表

年	主な出来事
593	聖徳太子が摂政となる
607	第二回遣隋使
618	(隋が滅び、唐が中国を統一)
630	法隆寺の建立
645	乙巳の変・大化の改新
663	白村江の戦い
672	壬申の乱・「日本」という国号を定める
701	大宝律令を制定
710	都を平城京へ移す
741	聖武天皇が国分寺建立の詔を発する
752	東大寺の大仏が完成する
759	唐招提寺の建立

図1 系図

左肩の数字は、第何代天皇かを示す。



◇この図から分かること◇

1. 天智天皇と天武天皇は、兄弟の関係である。
2. 持統天皇と弘文天皇（大友皇子）は、姉弟の関係である。
3. 持統天皇は、天武天皇の后である。

図2 政治の拠点（県の境界線は現在のものです）

近江大津宮 おうみおおつのみや 天智天皇 てんじてんのうが政治 せいじを行 おこなった。

飛鳥浄御原宮 あすかよみほらのみや 天武天皇 てんむてんのう・持統天皇 じとうてんのうが政治 せいじを行 おこなった。

平城京 へいじょうきょう 710年 ねん、奈良盆地北部 ならぼんちほくぶの平城京 へいじょうきょうに遷都 せんと。

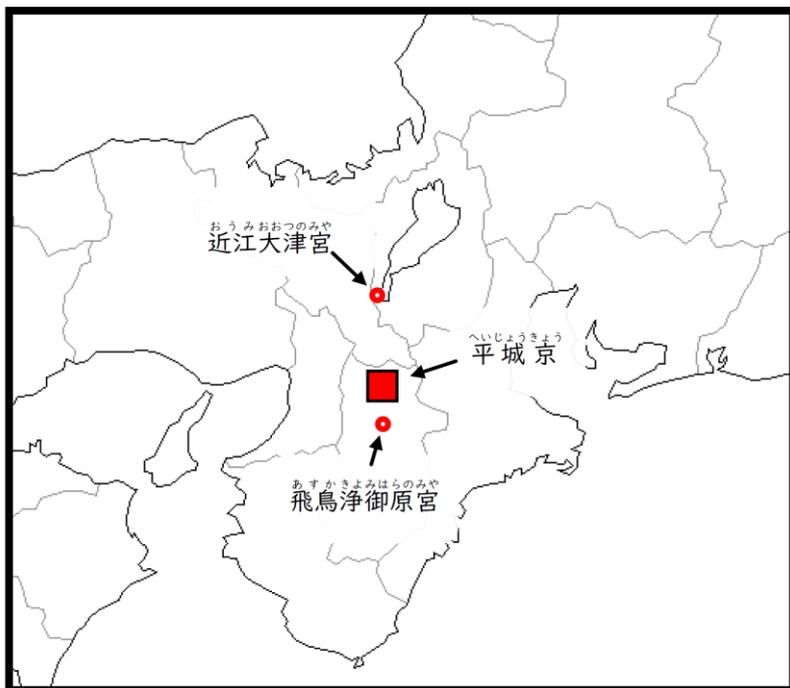


図3 『古事記』『日本書紀』『万葉集』

	成立	内容	編纂	表記
古事記	712	国内向けの歴史書	稗田阿礼 太安万侶	万葉仮名と漢文で書かれた。
日本書紀	720	国外向けの歴史書	舎人親王	中国の歴史書にならない漢文で書かれた。
万葉集	8世紀末	最古の和歌集	大伴家持	万葉仮名

ステップ2 なぞり書き

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

◇ 説明文中の重要語句と、説明文にあてはまる人物名をなぞりましょう。

① やま たいこく
邪馬台国の女王で、当時大陸にあった国である魏に使いを
おく 送ったとされる人物。中国の史料である『魏志倭人伝』
いがい きじゆつ 以外に記述がないため、謎が多い。

卑弥呼

② 593年、第三十三代推古天皇の摂政となる。
かんい じゅうにかい じゅうななじょう けんぼう
冠位十二階や十七条の憲法を定めるなど、国内政治
かいかく お すす けんずいし ちゅうごく を送り進んだ文化や
の改革を押し進める。また、中国に遣隋使を送り進んだ文化や
せいど と い 制度を取り入れた。

聖徳太子

③ たいりつ もののべし
対立していた物部氏を滅ぼした後、聖徳太子と協力して
せいじ ちゅうしん にな 政治の中心を担った。

蘇我馬子

④ 607年に遣隋使として派遣される。このとき隋の皇帝に
あててた国書に
ひい ところ てんし しょ にちぼつ ところ てんし いた
「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す……」
か とうてい げきど
と書かれていたため、皇帝は激怒した。

小野妹子

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

⑤ 聖徳太子の死後、権力の絶頂を極める蘇我氏であるが、645

年に乙巳の変で中大兄皇子と中臣鎌足に殺害された。

蘇我入鹿

⑥ 蘇我入鹿の父。入鹿死亡の翌日、自分の住む屋敷に火を放ち自害。

蘇我蝦夷

⑦ 645年、蘇我氏を滅ぼすと、さまざまな政治改革に乗り出す。

公地公民制をとり、土地制度では班田収授法を、税制

では租庸調という仕組みを定めた。これら一連の改革を

大化の改新という。第三十八代天智天皇。

中大兄皇子

⑧ 中大兄皇子とともに蘇我氏を倒し、後に藤原姓を受けた。

中臣鎌足

⑨ 天智天皇の皇子。天智天皇の崩御の後、672年に皇位継承を

めぐり大海人皇子と争った(壬申の乱)。

大友皇子

⑩ 天智天皇の弟。壬申の乱に勝利し、第四十代天武天皇

となり律令国家の建設を目指す。この方針は、その後も引き継

がれ、701年に大宝律令が完成し、天皇を中心とする中央

集権体制が整備された。

大海人皇子

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

⑪ 天武天皇の命により、**稗田阿礼**が学んだ神話や伝承の内容を文字に表した『**古事記**』を編纂した(712)。

太安万侶

⑫ 天武天皇の皇子。国外に向けた正史『**日本書紀**』を編纂した(720)。

舍人親王

⑬ 天皇から農民まで、さまざまな身分の人が詠んだ4500首の和歌を収録した、我が国最古の和歌集『**万葉集**』を編纂した。

大伴家持

⑭ 全国に**国分寺・国分尼寺**を建て、都には**東大寺**を建て**大仏**を建立し、乱れた国内を仏教の力で治めようとした。

聖武天皇

⑮ 唐の僧侶。6度の航海の末日本にたどり着いた。東大寺に住み、**聖武天皇**をはじめ日本の僧や尼を指導し、**唐招提寺**を建てた。

鑑真

ステップ3 人物名を書く

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

◇ 説明文中の重要語句をなぞり、説明文に合う人物名を右の□に書きましょう。

① ^{や ま たいこく}邪馬台国^{じょおう}の女王で、^{とうじたいろく}当時大陸^{くに}にあった国^ぎである魏^{つか}に使いを
^{おく}送ったとされる人物。^{じんぶつ}中国^{ちゅうごく}の史料^{しりょう}である『^{ぎ し わ じん でん}魏志倭人伝』
^{いがい}以外^{きじゆつ}に記述がないため、^{なぞ}謎^{おお}が多い。

② ^{ねん}593年^{だいさんじゅうさんだい}、第三十三代^{すいこ てんのう}推古天皇^{せつしやう}の摂政となる。
^{かんい}冠位^{じゅうにかい}十二階^{じゅうななじょう}や^{けんぼう}十七条^{さだ}の憲法^{こくないせいじ}を定めるなど、国内政治
^{かいかく}の改革^おを推し進める。また、^{ちゅうごく}中国^{けんずいし}に遣隋使^{おく}を送り進んだ文化^{ぶんか}や
^{せいど}制度^とを取り入れた。

③ ^{たいりつ}対立^{もののべし}していた物部氏^{ほろ}を滅ぼした^{あと}後、^{しょうとくたいし}聖徳太子^{きやうりよく}と協力して
^{せいじ}政治^{ちゅうしん}の中心^{にな}を担った。

④ ^{ねん}607年^{けんずいし}に遣隋使^{ほけん}として派遣^{ずい}される。このとき隋^{こうてい}の皇帝に
^あ宛てた国書^{こくしょ}に
^{ひい}「日出づる^{ところ}処^{てんし}の天子^{しょ}、^{にちぼつ}書を日没する^{ところ}処^{てんし}の天子^{いた}に致す……」
^かと書かれていたため、^{こうてい}皇帝^{げきど}は激怒した。

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

⑤ 聖徳太子の死後、権力の絶頂を極める蘇我氏であるが、645

年に乙巳の変で中大兄皇子と中臣鎌足に殺害された。

⑥ 蘇我入鹿の父。入鹿死亡の翌日、自分の住む屋敷に火を放ち自害。

⑦ 645年、蘇我氏を滅ぼすと、さまざまな政治改革に乗り出す。

公地公民制をとり、土地制度では班田収授法を、税制

では租庸調という仕組みを定めた。これら一連の改革を

大化の改新という。第三十八代天智天皇。

⑧ 中大兄皇子とともに蘇我氏を倒し、後に藤原姓を受けた。

⑨ 天智天皇の皇子。天智天皇の崩御の後、672年に皇位継承を

めぐり大海人皇子と争った(壬申の乱)。

⑩ 天智天皇の弟。壬申の乱に勝利し、第四十代天武天皇

となり律令国家の建設を目指す。この方針は、その後も引き継

がれ、701年に大宝律令が完成し、天皇を中心とする中央

集権体制が整備された。

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

⑪ ^{てんむてんのう}天武天皇の命により、^{ひえだのあれ}稗田阿礼が^{まな}学んだ^{しんわ}神話や^{でんしょう}伝承の^{ないよう}内容を

を^{もじ}文字に^{あらわ}表した『^{こじき}古事記』を^{へんさん}編纂した(712)。

⑫ ^{てんむてんのう}天武天皇の^{みこ}皇子。国外に^{こくがい}向けた^む正史『^{にほんしよき}日本書紀』を^{へんさん}編纂

した(720)。

⑬ ^{てんのう}天皇から^{のうみん}農民まで、^{みぶん}さまざまな^{ひと}身分の人が^よ詠んだ4500首の

^{わか}和歌を^{しゅうろく}収録した、^わ我が^{くにさいこ}国最古の^{わかしゅう}和歌集『^{まんようしゅう}万葉集』を^{へんさん}編纂した。

⑭ ^{ぜんこく}全国に^{こくぶんじ}国分寺・^{こくぶんにじ}国分尼寺を^た建て、^{みやこ}都には^{とうだいじ}東大寺

を^た建て^{だいぶつ}大仏を^{こんりゅう}建立し、^{みだ}乱れた^{こくない}国内を^{ぶっきょう}仏教の^{ちから}力で^{おさ}治めようとした。

⑮ ^{とう}唐の^{そうりよ}僧侶。6度の^ど航海の^{とこう}末日本に^{すえにほん}たどり着いた。^{とうだいじ}東大寺に^す住み、

^{しょうむてんのう}聖武天皇を^{にほん}はじめ日本の^{そう}僧や^{あま}尼を^{しどう}指導し、^{とうしょうだいじ}唐招提寺を^た建てた。

ステップ4 重要語句の確認

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

◇ 歴史人物についての説明文について、() にあてはまる語句を、下の□から選んで書きましょう。

① () の女王**卑弥呼**は、当時大陸にあった国である魏に使いを送った。中国の史料である『()』以外に記述がないため、謎が多い。

② 593年、第三十三代 () の摂政となった**聖徳太子**は、() や () を定めるなど、国内政治の改革を推し進めた。また、中国に遣隋使を送り進んだ文化や制度を取り入れた。

③ **蘇我馬子**は、対立していた () を滅ぼした後、聖徳太子と協力して政治の中心を担った。

④ 607年に**小野妹子**が () として派遣される。

⑤ 聖徳太子の死後、蘇我氏は権力の絶頂を極めた。しかし、645年に**蘇我入鹿**が () で中大兄皇子と中臣鎌足に殺害された。

遣隋使	十七条の憲法	物部氏	推古天皇
魏志倭人伝	邪馬台国	冠位十二階	乙巳の変

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

- ⑥ 蘇我入鹿の父**蘇我蝦夷**は、入鹿死亡の翌日、自分の住む屋敷に火を放ち自害した。
- ⑦ 645年、**中大兄皇子**が蘇我氏を滅ぼすと、さまざまな政治改革に乗り出す。
 () をとり、土地制度では () を、税制では ()
 という仕組みを定めた。これら一連の改革を () という。
 第三十八代 () 。
- ⑧ **中臣鎌足**は、中大兄皇子とともに蘇我氏を倒し、後に () 姓を受ける。
- ⑨ 天智天皇の皇子であった**大友皇子**は、天智天皇の崩御の後、672年に皇位継承をめぐり大海人皇子と争った () 。
- ⑩ 天智天皇の弟である**大海人皇子**は、壬申の乱に勝利し、第四十代 () と
 なり () の建設を目指す。この方針は、その後も引き継がれ、701年に
 () が完成し、天皇を中心とする中央集権体制が整備される。

大宝律令

租庸調

大化の改新

壬申の乱

律令国家

班田収授法

天智天皇

藤原

公地公民制

2. 日本の起こりと飛鳥・奈良時代

⑪ **太安万侶**は、天武天皇の命により、() が学んだ神話や伝承の内容を文字に表した『()』を編纂した(712)。

⑫ 天武天皇の皇子であった**舎人親王**は、国外に向けた正史『()』を編纂した(720)。

⑬ **大伴家持**は、天皇から農民まで、さまざまな身分の人が詠んだ4500首の和歌を収録した、我が国最古の和歌集『()』を編纂した。

⑭ **聖武天皇**は、全国に()を建て、都には()を建て()を建立し、乱れた国内を仏教の力で治めようとした。

⑮ 唐の僧侶であった**鑑真**は、6度の航海の末日本にたどり着いた。東大寺に住んで、聖武天皇をはじめ日本の僧や尼を指導し、()を建てた。

国分寺・国分尼寺

古事記

大仏

万葉集

唐招提寺

日本書紀

東大寺

稗田阿礼